



2025



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます

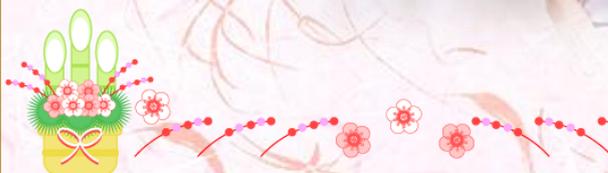
皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は感染対策を始め、急性期医療を中心に質の高い看護の提供にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

本年も地域医療支援病院としての役割を果たすべく地域の方々と連携し、地域になくてはならない病院であり続けたい思いを胸に、職員の皆様のお力添えを頂きながら、笑顔と優しさをもって質の高い看護を実践してまいります。

さて川内市医師会立市民病院看護部では、ホームページリニューアル、公式ラインの開設にむけて準備中です。看護部の日常を皆様にお届けしていこうと思っております。皆様にご興味を持っていただければ嬉しい限りです。一緒に働く仲間も広く公募しておりますので、病院見学へもお越しいただけることを心よりお待ちしております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

看護部長 田口 弥生





ラダー I 「在宅訪問」を終えて

4階東病棟 田代

今回、HOT導入された患者さんとの関わりの中で、HOTの使用法等を入院期間中に習得されたことにより、大きなトラブルなく生活できていると思っていました。しかし、実際に自宅を伺うと、患者さんのライフスタイルに合わず、ちょっとした不便さの積み重ねが結果的には大きな負担になっているように感じました。その都度、患者さんの思いや問題点を明確にし、改善、調整していく事が大切ですが、退院後は、その問題解決までの時間が患者さんのQOLに大きな影響を与えると感じました。私自身、退院後の生活を容易に考えていたわけではありませんが、入院中と比べ在宅では実際に生活しないと分からない現状がたくさんある事を知りました。今回の経験から、患者さんの生活状況を詳しく聞き、実際の指導に繋げていく必要があると学びました。



HCU病棟主催:IABP勉強会を実施して

HCU病棟 大田

HCUでは、スタッフが経験してきた看護を他部署に発信する勉強会を実施しています。第3回目は、IABPについて「補助循環とは」から始まり、「IABPの目的、仕組み」「挿入中と抜去時の看護、挿入中・抜去時の合併症は何か」について勉強会を行いました。実際にIABPも用意して、バルーンが体内ではどのように動いているのかを見てもらいました。

次回勉強会は、2月5日(水)に「CHDFについて」開催予定です。興味がある方は是非参加してみてください。



救急シミュレーションを実施して

回復期リハビリテーション病棟 福岡

「デイルームで食事中の窒息」事例と設定しました。ポータブル吸引器・ヤンカーは、使用頻度が少ない為、操作方法の再確認をしました。また、ヤンカーを使用したことがないスタッフには、とろみ(軽~重)をつけた白湯を用いて吸引を実施してもらいました。患者設定に合わせての救急コールとSBARに沿っての報告のシミュレーションも実施しました。実施してみて、スタッフから「報告に不安がある」などの意見もあり、SBARのカードを作成し、今後活用できるように配布しました。当病棟は、急変に遭遇することが少ない為、訓練での経験は重要です。これからも、スタッフの意見をもとに救急シミュレーションの計画をしていきたいと思えます。





< 看護協会主催 >

看護職員認知症対応向上研修」に参加して

3階病棟 中村

看護協会主催の「看護職員認知症対応力向上研修」を受講してきました。認知症ケア委員会のメンバーとして活動してはいるものの、まだまだ認知症についての知識や理解が浅かったなあと感じる研修でした。認知症とせん妄の違いや、同じ認知症であってもそれぞれの原疾患が違い、経過や治療内容・症状なども違います。また、それぞれの障害に合わせた対応内容がある事も学びました。一番心に残っていることは、「認知症の患者さんは毎日が不安でいっぱい」という事です。「介入する私達医療従事者のケアそのものが患者さんの症状を良くも悪くもしていく」という事を改めて学びました。

これからはこの言葉を念頭に、患者さんとより良い関係性を築いていけるような看護を行っていきたいと思います。



糖尿病重症化予防(フットケア)研修に参加して(11/7~11/9)

4階東病棟 中森



11/7~11/9にかけて3日間行われた「糖尿病重症化予防(フットケア)研修」に参加させていただきました。糖尿病患者はとくに、フットケアの良し悪しはその人のQOLに大きく関わる事を知りました。フットケアに関わる知識はもちろん、患者の背景を含めたアセスメント能力の必要性を学べる講義や、実際にフットケアを実施するために必要な技術演習など、とても学びの多い3日間でした。1月からフットケア外来を担当しますが、患者の笑顔に繋がるフットケアが実施出来るよう、今後も自己研鑽に努めていきたいと思っています。



「患者サービスの改革~セル看護提供方式~」(11/19)

4階東病棟師長 皮籠石

今回、看護協会主催のセル看護についての研修に参加してきました。当院のセル看護は導入されてから4年近くになりますが、うまく運用できているのか、疑問を持つ日々でした。研修で一番印象に残ったのは「無駄とり」の言葉です。さまざまな業務の中で無駄になっている事はないかを考え、「無駄とり」をすることで充実した看護に繋がられるようにしていく必要があるということを再認識しました。そして、その「無駄」になっていることは、自施設で考えていくべきだと学びました。研修後、自施設に戻り、色々と自分なりに考えてはみましたが、個人で変えていくことは難しく、周囲の人を巻き込みながら考えていく必要があると思いました。今後、副師長・主任会や業務委員会とも協力しながら、セル看護が充実できるようにしていきたいと思ひます。



第62回 日本癌治療学会学術集会(10/24~26)

がん化学療法看護認定看護師 外来師長 濱田

日本癌治療学会では、最先端の医療（治療）だけではなく、副作用管理や多職種連携もテーマとして挙げられています。今回、特に興味を引かれたのがACPの取り組みでした。皆さん、入院基本料に人生の最終段階における適切な意思決定支援の支援が盛り込まれましたことをご存じでしょうか。人生の最終段階において「どのような医療を受けたいか、逆に受けたくないか」を家族や友人、さらに医療専門職と「繰り返し」話し合うことが重要です。『ACPがゴールにならないように患者の困りごとに耳を傾けて』と講演で聞かれた言葉でした。ACPを進める中で、患者の困りごとを聴くこと、多職種につなぐこと等、看護力を発揮できるよう現場に落とし込んでいきたいと思えます。

第86回 九州消化器内視鏡技師学会(11/16)

外 来 有村

11月16日、九州消化器内視鏡技師学会がありました。研修内容は、「求められる消化器内視鏡技師に向けて」でした。内視鏡検査に約6年間携わり、昨年度に消化器内視鏡技師の認定を取得し、現在業務に携わっています。自分の技術や知識のスキルアップだけではなく、他のスタッフの教育にも係わる様になり、内視鏡検査の介助や介助時の手技などチームで連携を図り、安心・安全な外来看護を目指したいと思うようになりました。ドックや二次検診の内視鏡検査だけが増えている一方で、常勤医師の不在もあり、特殊検査（ERCP・ESD・EIS・EVLなど）が以前に比べ減少し、経験が浅いスタッフも多いのが現状です。技師として機器取り扱いや点検、管理にも責任を持ちこの研修会での学びを今後の消化器内科業務に活かしたいと思えます。

第51回 脳神経看護学会学術集会(9/23)

4階西病棟 福永

9月に福岡で開催されました、日本脳神経看護学会に参加してきました。講演発表で、摂食嚥下障害のある急性期脳卒中患者への食事介助のアプローチ方法や、脳卒中ケアユニットにおけるせん妄対策に関する意識向上への取り組みについて学びました。脳卒中認定看護師と認知症認定看護師による座談会では、脳梗塞、認知症の患者の事例を元に、入院後の関わり方の意見交換を聞きました。画像所見と症状のすり合わせや薬剤管理、患者の行動の背景を明らかにして対応することなど、それぞれの認定看護師の視点でのアセスメントや関わり方を学ぶ事が出来ました。今回の学会での学びを今後の看護やケアに活かし、病棟全体に還元していきたいと思えます。



<編集後記>

2025年は、干支で「乙巳(きのとみ)」にあたり、「成長」や「変革」の年。これまでの努力や準備が身を結び、勢いを増していくことを示唆しているそうです。皆さんにとって良き一年になりますように・・・ <松下>